

# INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

51

2018

## 成年 より親しみ深い病院に

- DOCTOR'S VOICE 01 様々な脳疾患に応用できる集束超音波治療(最先端脳神経外科治療)
- DOCTOR'S VOICE 02 お互いを支え合って働きやすい環境を
- DOCTOR'S VOICE 03 患者さんだけでなく、家族全体をケアする
- DOCTOR'S VOICE 04 深い専門性と広い知識をもった医療人の育成に期待



仕事始め式



— 平成30年初春 —

寄附講座「脳神経先端医学講座」の設置

## 様々な脳疾患に応用できる集束超音波治療（最先端脳神経外科治療）

脳神経先端医学講座 准教授 伊賀瀬圭二

脳神経先端医学講座は、私が10年前から赴任している貞本病院の寄附講座として、2017年7月に開設されました。私は脳神経外科医ですが、現在は“切らない”脳神経外科治療である「集束超音波治療」も扱っています。

本講座の第一目標は、貞本病院に設置されている集束超音波治療器を用いた本態性振戦の治療を確立することです。本態性振戦とは、何かをしようとすると手のふるえが起こり、日常生活に支障を来す病気です。原因不明で、薬の治療にも限界があるため、これまでは頭に小さい穴を開け、細い針の先端で患部を焼く治療が行われてきました。しかし、集束超音波治療は、頭蓋外から「超音波」で焼くことで症状を軽減させます。頭部を切開しないため、患者さんの負担が小さく、今後期待される治療法です。また、脳腫瘍やアルツハイマー病など、様々な脳疾患にも応用できる可能性があります。

さらに、脳はBBB（Blood-Brain-Barrier：血液脳関門）により、薬を含めた有害成分が入りにくい構造があります。集束超音波治療はこのBBBを一時的に開放できることが証明されており、この効果を用いた抗がん剤治療の研究も進めて行きたいと考えています。



## PROFILE

いがせけいじ◎1992年愛媛大学医学部卒業。済生会松山病院、愛媛大学大学院等を経て、2002年愛媛大学脳神経外科助手。ケンブリッジ大学留学の後、2006年同講師。2010年から貞本病院診療統括部長を務める。2017年7月から現職。趣味は、車、音楽、ワイン。

女性医師の活躍

## お互いを支え合って働きやすい環境を

放射線科 助教 松田 恵  
医員 渡部笑麗

現在放射線科は、女性医師が非常に増加しています。当科は画像診断や治療計画を立てることなどが主な仕事で、自分のペースで仕事をしやすく、比較的オンオフがはっきりしています。さらに、遠方に行かずに地域医療に貢献できる遠隔画像診断システムの構築も進行中で、出産等ライフイベントの多い女性医師が、長く仕事を継続でき、キャリアを積みやすい環境です。また、科全体でお互いに支え合って仕事をし、働きやすい職場作りに取り組んでいます。今後も女性医師の増加が見込まれ、個々の働き方やキャリアの多様化が予測されますので、より個人個人が自分のペースやライフスタイルに合った働き方を選択できる環境になればいいと考えています。



## PROFILE

写真右／まつだめぐみ◎愛媛大学医学部卒業後、松山赤十字病院、県立中央病院等を経て2016年4月から現職。趣味はピラティス、ヨガ、読書、旅行。

写真左／わたなべえみり◎愛媛大学医学部卒業後、県立中央病院を経て2013年4月から現職。趣味はヨガ、歌うこと、スキー、おいしいものを食べる、料理、温泉。

## 看護師のキャリア紹介

## 患者さんだけでなく、家族全体をケアする

家族支援専門看護師 源田美香

家族支援専門看護師とは、患者さんを含めた家族のニーズを引き出し、家族が主体的に問題解決できるよう、家族をまるごと支援する専門看護師です。家族支援専門看護師は、全国で57人、愛媛県では1人（2017年12月現在）しかいない専門看護分野です。専門看護師になるには、特定分野で5年以上の実務経験の後、看護系大学院を卒業し、認定試験を受ける必要があります。

私は臨床経験の中で、家族へのケアの重要性を感じながらも、対応の難しさに直面し、その壁を越えたいという思いから専門看護師の道を選択しました。当院には、資格取得を支援するために、学びを目的とする休業制度が設けられています。私もこの制度を利用し、資格を取ったあとスムーズに復職しました。

復職後は資格を活かし、患者さんだけでなく、療養から派生する困難を抱える家族のニーズを引き出してケアに繋げたり、家族看護に関する研修の講師も行っています。私は、在宅移行期にある患者さんのご家族への支援は、家族生活の安定と療養継続の意味で重要であると考えています。今後は地域との連携を進めて、継続性のあるケアを提供したいです。また、家族支援専門看護師の認知度の向上にも努めたいです。



## PROFILE

げんだみか◎大阪医科大学附属病院を経て、当院勤務。高知県立大学看護学研究科博士前期課程修了、2016年家族支援専門看護師に認定。座右の銘は「自分が方向を変えれば新しい道はいくらでも開ける」。趣味は、ハイキング。

## FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること『VIP DOCTORに聞く』

## 深い専門性と広い知識をもった医療人の育成に期待

西予市立西予市民病院 院長 末光浩也

愛媛大学医学部附属病院には、高度で先進的な医療を提供していただくと同時に、医師や看護師などへの充実した教育で、愛媛県全体の医療を守り育ててほしいです。近年では、附属病院の総合臨床研修センターをはじめとする大学の先生方のおかげで、愛媛県内で研修医となる医学部の卒業生が増加しています。しかし、愛媛県の地域では、今なお医師の充実が望まれており、当院でも医師確保に苦労しています。医師不足解消のために、より多くの医学生が愛媛大学で地域医療に触れる機会や教育を受け、研修医や医師として愛媛県の地域で活躍してくれることを願っています。

また、超高齢社会の現在、患者さんは多くの疾患を同時に持っていることが多く、地域医療では多様な疾患に対する知識が必要です。研修期間だけでなく、医師や専門医となったあとも、他科の先生方と積極的にに関わり、幅広い知識と視野を持つとすると、向上心のある医師の育成をお願いしたいです。



## PROFILE

すえみつこうや◎愛媛県西予市出身。1981年愛媛大学医学部卒業。2012年西予市立宇和病院院長を務め、2014年から現職。大学時代は陸上競技部で400m走者、趣味はゴルフ。好きな言葉は「平常心」。

# 愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

## 地域医療再生セミナーを開催



平成29年11月13日(月)、県内各地域の医療体制の現状と展望について、また、県内の地域医療に従事する医師の確保と定着について話し合う「地域医療再生セミナー」を開催しました。

セミナーでは、地域医療関係講座の教授が現状や取組みについて話し、参加者と活発に意見交換を行いました。医師不足の解消等、県内各地域の課題や問題点を、参加者全員で共有することができました。

地域医療支援センター ☎089-960-5990

## 大規模災害訓練



平成29年12月10日(日)、南海、東南海地震を想定した大規模災害訓練を実施しました。訓練は、夜間に震度6強の地震及び火災が発生したという想定で、消火訓練や大型テントの設営、治療の優先順位を決めるトリアージ訓練等を行いました。当院は災害拠点病院であり、有事の際、強力な医療活動を行うことが求められています。これからも災害訓練を定期的実施し、災害拠点病院としての機能強化を図ります。

総務課 ☎089-960-5125

## クリスマスコンサートを開催



平成29年12月13日(水)、15日(金)にクリスマスコンサートを開催しました。13日は、がん患者サロン「あいほっと」主催で開催し、土居裕子さんらの伸びやかな歌声が病院内に広がり、患者さんにとって癒やしのひとときとなりました。

医療サービス課  
☎089-960-5182

## 連携病院の皆様

### 平成30年3月3日(土) 松山全日空ホテルにて 連携病院長会議開催



第30回連携病院長会議を上記日程にて開催します。詳細につきましては、当院ホームページをご覧ください。

<https://www.hsp.ehime-u.ac.jp/cooperation>

## 編集後記

明けましておめでとうございます。輝かしい新年をご家族みなさんと迎えられたこととお慶び申し上げます。表紙は恒例となっております、仕事始め式での写真です。三浦病院長をはじめ、全職員新たな気持ちで業務に邁進いたします。本年も当院をよろしくお願いいたします。

酷寒の折柄、くれぐれもご自愛ください。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙  
仕事始め式にて

## 総合診療サポートセンターの制服を作成



このたび総合診療サポートセンター(TMSC)では、『顔の見える関係』の構築のため、地域に出向くことが多くなることから、外出用のブレザー(写真左)と、来院される皆さんから認識してもらえるよう、医療ソーシャルワーカー(MSW)のポロシャツ(写真中央・右)を新調しました。ブレザーは、胸元にTMSCのマークである四つ葉のクローバーがデザインされており、ポロシャツは親しみやすいネイビーで、左腕にはMSWの文字が入っています。この制服を目印に入院生活における不安、ご自宅での療養生活における困りごとなど、気になることがありましたらお気軽にお声かけください。

これからもみなさんとより良い連携を図っていただけるよう、新しい制服のように気分も一新し、笑顔で丁寧な対応を心掛けていきます。

総合診療サポートセンター ☎089-960-5261